

緑の海

町畑小 六年 中屋敷 玲子

(八戸市連合婦人会会長賞)

「ちよつと、遠回りして行こうか。」

父は、休みの日に家族で買い物に出かけると、思い付いたようにドライブにさそう時があります。ドライブと言っても、八戸市内を走って帰るだけなのです。でも、初めて通る道や、知らないお店を見るだけでも楽しくて、今日はどこを通るのかなあとと思うと、わくわくした気持ちになります。

八戸大橋を渡って、大きな建物の工場地帯をぬけました。お母さんが、

「あ、きれいだね。」

と、うれしそうに言いました。道路の両側には一面に田んぼが広がっています。私はこの景色が大好きです。

同じ丈に伸びた明るい緑色の稲は、カーペットを敷きつめたように見えます。風が吹くと、稲は波のようにサワサワとうねりました。田んぼの真ん中を走って行く車は、まるで緑の海を進んで行く船のようです。私は窓を大きく開けました。風の気持ち良さと緑のさわ

やかさで、心が晴ればれとします。

田んぼは、来る度に違った美しさがあります。やわらかな緑色が段々濃くなり、丈の高くなつた稲は、力強い緑に変わって行きます。秋には、米の入った頭をたれ下げて、黄金色こがねに姿を変えます。

私は五年生の授業で、バケツに六本の稲を育てました。稲の花は、たった三十分位しか咲きません。私はその花を見ることができませんでした。白い花は、小さなお米がはじけたような形で、今まで見た花とはまったく違う、神秘的な美しさでした。

収穫の時には、自分が思っていたよりも多くのお米が穫れました。お店で買うようなお米ではなかったけど、最後まで育てた満足感でいっぱいでした。

花壇の花は、見る人の心を明るく楽しくしてくれます。田や畑は、花壇のように目立たないけれど、作物の命の力強さや、豊かな美しさがあると思います。私達は作物を食べ生きています。田や畑は私達の命ともつながっているのです。私は田んぼの美しさを、とてもありがたく感じます。

社会科の授業で、私達の主食は、米からパンや肉に代わって来ていると勉強しました。

私は、このままでは田んぼが無くなるのではないかと心配です。パンを作る小麦なども、外国からの輸入に頼っているそうです。

私達が田や畑を守るためには、どうしたら良いのでしょうか。八戸で収穫した米や野菜を、学校給食でたくさん使ったり、八戸産と書いてある農作物を市民が選んで買えば、八戸の田や畑は少なくならずに済むのだと思います。

私は、多くの人に作物の緑のすばらしさを感じてほしいです。みんなが少しづつ協力し合って、八戸市の豊かで美しい緑を、もっともって広げて行けたら良いなあと 생각합니다。